サトウキビ黒穂病について

令和６年に，奄美群島でサトウキビ黒穂病が発生し，徳之島でも一部地域の株出しほ場で発生が確認されました。

黒穂病の症状の特徴として，病気の株は**健全株よりも茎が細く，節間が伸びて徒長し，先端部は長いムチ状（黒穂）**となることが挙げられます。発病した茎は枯死するため**減収の要因**となります。

この病気は，５～７月頃に発生しやすく，被害は株出しほ場に多いです。また，株出し回数が多いほど発生も多くなります。

※黒穂病とイネヨトウによる芯枯れは症状が異なります

先端部が黒くなる

サトウキビ黒穂病の症状

茎全体が茶色く枯死

イネヨトウによる芯枯れ

サトウキビ黒穂病が発生，または，疑いがある場合は，関係機関・団体への連絡と，早めに抜き取り等の対策を行うことが重要です。

青刈りハカマの回収・利用でコスト低減を！

これまで，さとうきび収穫残渣のハカマをロールベールサイレージに調製して利用する粗飼料利用体系を推進しており，今年度は**青刈りハカマを直接給与する体系**も検討しています。

青刈りハカマは，**集草用シューターをハーベスターに装着し，ローダーに取り付けたさとうきび収穫網で直接回収**して，土の混入を極力避ける仕組みとなっています。

青刈りハカマは，ほ場での重量測定後，利用者が運搬車両で受け取り，重量に応じて課金する仕組みで，回収日時，ほ場，量についてＳＮＳで連絡を取り合い，効率化を図っています。

ハカマ回収の様子

青刈りハカマの受け取り

伊仙町で始まったこの取組は，回収者１組織，利用者３戸が１グループとなり，**製糖期間中週に１回，ハカマを約３ｔ回収し，生産牛約300頭に給与していく計画**です。

土の混入がほとんど無い青刈りハカマは，牛の採食性が非常に良く，利用者にも好評です。

牛にも生産者の懐にも優しい取組をぜひ始めてはいかがでしょう。

青刈りハカマの給与